

第 4 回 ダムにおける入札契約方式検討委員会 議事要旨

平成 16 年 5 月 25 日（火）15:00～17:00 ダム技術センター 特別会議室

参加者：小澤委員長、大森委員、草柳委員、豊田委員、埜本委員、水野委員

要旨

設計段階、工事調達段階、建設段階の各段階における入札契約制度を具体的に検討するため、現状の課題と対応案について説明し、各委員より以下の意見があった。

- ・コスト縮減は、施工段階より設計段階の方が効果的だと考えられ、設計段階で活発に検討するためには、設計施工一括発注もしくは、設計段階でコスト縮減に関する良い提案が出てくる業者を選定することが考えられる
- ・民間企業の技術力をより一層活用するためには、基本的なスタンスを発注者が「最良の標準案」を提出するということから、標準案を示さない、もしくは標準案に対し業者からより良い提案をもらうように見直すことも検討すべき
- ・委員会では、現実的な法制度の問題もあるが、まず最善の案を検討する。ただし、ダム現場においては、予算逼迫のなかコスト縮減に早急に取り組むべき状況にあり、できるだけ早く実施可能な取り組みも抽出していく
- ・コスト縮減にあたって、それに伴うリスクの分析・分担に関する視点の議論も必要
- ・事業費に最も密接な関係がある工期短縮について、早期供用のメリットや工期短縮に伴う予算の確保、契約方式等、現状を詳細に調査し、具体的に検討を進める

今後、さらに現状の課題と対応について分析を行ったうえで、実現に向かった際の制約や現実とのギャップを分析し、具体的な検討を行う。